



# 日 輪

本校教育目標

ふれあおう 楽しもう 学びあおう

平成22年度 9月号

長 月

横浜市立飯田北小学校  
校長 武藤 牧子

## 今問われる絆

学校長 武藤 牧子

猛暑の夏休みが終わり、また、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。夏休み明けに転入した3名の児童を含め198名で前期の後半が始まりました。

さて、夏休みに入り家族や親子について考えさせられる報道に心を痛めました。「子どもは宝」「お年寄りを敬う気もち」といったかつて当たり前にもっていた日本人の気質はどこへいつてしまったのでしょうか。母親が子育てを放棄し、自分さえよければ自分の好きなように生活をしたという思いを優先し、置き去りにされた子どもたち。母性を疑ってしまう事件でした。また、これまで世界の長寿番付上位を占めていた日本。しかし、その長寿国としての存在も危ぶまれるように、各地で高齢者の行方不明の情報が流れました。それも、一人暮らしの高齢者ではなく、家族がいる方の安否がわからないという予想もつかない事態が起こっていました。自分の祖父母や父母が生きているのか、どこにいるのか、わからなくても平然としていられる感覚に愕然としました。今、子どもたちに命の大切さ、人間の尊厳について考え、自分の生き方につなげていけるよう、日々の教育活動に取り組んでいる者として改めて、心の教育の重要性を感じました。子どもにとって一番身近な社会である「家族」。家族のためにできることを、家族に支えられて自分の生活が成り立っていることを、これからも一人ひとりの子どもたちが実感できるようにしていかなければいけないと思いました。家庭においても家族の絆を太く強くしていくことを願います。

## 継続は力なり！

真夏日を更新した今年の夏、子どもたちは、地域のお祭りに参加したり、水泳学習やジャボラの学習に参加したり、それぞれ有意義に過ごしていたようです。

8月23日(月)、いちよう小学校を会場にして泉区水泳大会が実施されました。いちよう小学校、いずみ野小学校、飯田北小学校の3校での水泳大会でした。各レースの前に選手の名前が紹介されると「はい。」と元気よく返事をし、コースの前に立ちます。その様子を見て感心しました。飯田北の子どもたちの返事は、プールサイドに響くほどはっきりとしたものでした。側にいた審判の先生方から「飯田北小の返事はすごいな。」というつぶやきが聞こえてきました。子どもたちは、練習の時よりもタイムを縮め精一杯の力を発揮していました。それにもまして、「はい。」という返事にやる気が伝わってきたことはいうまでもありません。後日、副校長に返事がすばらしかったことを伝えると「実は、練習の時も〇〇先生が繰り返し指導していました。」という話を伺い、日々の指導の蓄積が子どもたちの力につながることを感じました。夏休み、頑張っって水泳教室に参加しその成果を発揮した子どもたちとともに、それを支え指導を重ねた教職員にも大きな拍手を送りたいと思いました。同じようにジャボラの学習会でも子どもたちに指導する教職員の姿に学びの連続性の実践を見ることができました。前期も残すところ1ヶ月あまりですが、子どもたちの成長をしっかりとみとっていきたいと思います。



